

Navi

Information

No.60

2015.7

特集

「災害ボランティア」を考える

近年、局地的な大雨や地震の発生など日本各地で自然災害が起こっています。県内でも一昨年に嶺南を襲った集中豪雨により、住宅地の冠水や土砂崩れなど、各地に甚大な被害をもたらしました。

そのような中、災害発生直後から多くのボランティアが駆け付け、被災家屋の清掃やがれきの撤去などの活動を行っていただきました。今や災害からの復旧にボランティアの存在はなくてはならないものとなっています。

ボランティアに来てほしいという被災現場の要望を受け付け、県内外から駆け付けたボランティアを要望のあった現場へスムーズに送り出す役割をしているのが、被災地に設置される災害ボランティアセンターです。

今回、市町の災害ボランティア担当者や、市町社会福祉協議会など災害ボランティアセンターの設置運営を担う方を対象に、災害ボランティア研修会を開催し、講義と演習を通じて災害ボランティアセンターの役割や運営、避難所運営について学びました。



6月11日嶺北会場 講義



6月12日嶺南会場 演習

台風18号
(平成25年9月)

あの災害から...それぞれの声を聞いてみました

Voice
1

災害ボランティアを受け入れて

元小浜消防団 団長 竹中嘉浩さん (小浜市加茂)

Q 一昨年の災害時の活動に対し、小浜消防団として内閣総理大臣表彰を受賞されました。

A 消防団は究極のボランティアではないかと思っています。団員の方には危険も伴う中、本当にかんばっていただきました。団として表彰いただけるとても光栄です。

Q お住まいの加茂地区でも被災され、ボランティアを受け入れられました。

A 県内外からたくさんの方に来ていただきました。被災前よりきれいになったように思います。

ただ、ボランティアの受け入れは、最初それほどスムーズではありませんでした。家の中での活動ですので、「自分たちで」という考え方が根強かったこと、また、来てもらった時の対応(もてなし)を気にされ、なかなか受け入れとならなかった。地区の顔見知りの方が間に入って、ボランティアに対して遠慮も余計な気遣いもなくていいからと説得に説得を重ねて、ようやく受け入れてもらう状況でした。



Q 地域のつながり、そしてボランティアを受け入れる力が大切ですね。

A 普段からの顔の見えるつながりは本当に大切です。どこに、どんな人がいるかという把握はもちろん、顔見知りだからこそ安心してもらえ、話がスムーズに進むことがたくさんあります。

また、ボランティアを受け入れる側も頼るべき時は頼るという意識、そして、受け入れ可能な現場であるかという判断ができる知識も必要です。ボランティアの方に怪我をさせるようなことになっては大変なので、活動できる現場か、活動の指示ができるかなど、難しい判断も多いと思いますが。

Q 今回、地区では感謝の気持ちを伝えるため横断幕を作られました。

A 実は被災の翌日、地区で作業をしたものの、なかなか片付きませんでした。それがボランティアの方に来てもらったら、みるみる内にきれいになっていく。本当にすごいものだと思います。

天気も良かったので、暑い中泥だらけになって作業していただきました。そんな中、ボランティアの方から「ボランティアをさせていただいてありがとう」という言葉をかけてもらって感動しました。

今度、どこかでボランティアを必要としていたら、ぜひ今度は行く側になりたい、と話しています。



「家のまわりだけでなく、こころもきれいになりました」

台風18号
(平成25年9月)

あの災害から…それぞれの声を聞いてみました

Voice
2

災害経験を経て、ボランティアセンター連絡会を設置した若狭町の取り組み 若狭町社会福祉協議会

Q 被災から災害ボランティアセンター開設までの状況は。

A 豪雨となった16日、社協では施設の一つが床上浸水し、入居者の安全確保等の対応をしていました。この時点では町全体の状況は見えず、もともと平常時から災害ボランティアセンター設置・運営について話し合う場がなかったため、センター設置という話にはまだなっていないませんでした。

まず、野木地区の被害の大きさが分かり、16日夕方には、地区民の方中心に地区のセンターが設置されました。被災地のニーズ調査をする中で、18日からは社協が中心となり、実質的な若狭町ボランティアセンターとして野木地区災害ボランティアセンターを運営し、ニーズが全町に広がってきたため、場所を移転するかたちで、ようやく20日に若狭町災害ボランティアセンターが設置されました。

Q センターの状況はどのようでしたか。

A 町の真ん中にあたる場所にセンターを、さらに3か所にサテライトを設置しました。

災害ボランティアセンター運営の経験とノウハウがない中で、県社協や市町社協の応援職員・各種団体の協力を得ながら活動しました。

しかしながら、災害対策本部をはじめとする各関係機関・団体等との連携および情報共有はできておらず、例えば、発災から初動での動き方やニーズ調査等は混乱し、情報が錯綜、何が正しい情報なのかわからなくなっていました。



Q そういった経験を経て、センター連絡会がH26.8月に立ち上げられました。

A 4月頃から立ち上げに向けて検討が始まりました。災害を経験して、平常時からの連携・ネットワークづくりが本当に大切だという意識をみんなが強く持っていたので、設置しようとして決めてからは早かったです。同じ課題を共有できていたことが良かったですね。

Q 立ち上げにあたり工夫した点、また今後必要だと思われることは。

A 当時は県内で7市1町に連絡会があり、それぞれを比較して、若狭町として最も良い方法を検討しました。協議事項も事前に担当レベルで検討を重ねるなど、形だけではない実効性のあるものにしていきたいと考えています。

組織構成を、3つの種別(協議団体・協力団体・アドバイザー)に分担しているのも特徴です。前回、情報が誤って流れたということがあり、広報専門の団体もメンバーに入ってもらっています。

今後は、発災から災害ボランティアセンター設置までの情報収集および共有方法の確立や災害ボランティアの育成(ボランティアに参加する側へのアプローチ)等が重要になります。また、町内ではボランティアを受け入れる(頼ってもいい)という意識が低く、センターの認知度も低かったため、啓発が必要だと感じています。



県内NPO活動紹介

平成26年度

県民社会貢献活動知事奨励賞

「義景修景保存会」

概要

問合せ先: 義景修景保存会

事務局: 大野市泉町1-10

TEL: (0779)66-2773

毎日の地道な活動を続けて22年

大切な場所を守り、
次世代につなげたい

大野市にある「義景公園」は、一乗谷を本拠とした朝倉義景の墓所をはじめ、義景庵(休憩処)や湧水池があり、水琴窟では、琴の音に似た美しい反響音を楽しめます。地域の憩いの場として親しまれ、また、観光客も散策に訪れています。

この公園の落ち葉清掃や草刈り、義景庵、湧水池および園内水路の清掃などを行っているのが、平成5年に発足した「義景修景保存会」です。

同会の会長の伊藤さんをはじめ、メンバーの方々に活動をお伺いしました。



落ち葉清掃・草刈りの様子

朝倉義景の墓所があるこの場所は、「ゴザ」を広げ、地域の人達が自慢の手料理を持ち寄って桜の花見会をしている50年以上前の写真が残っているとおり、昔から子どもから大人までが楽しむ場となっていました。また、運動会も行われていました。

地域の人達にとって、ずっと大切に特別な存在であったこの場所を守りつづけ、次世代につなげていかなければという思いから、会が発足されました。

会の活動とともに、公園も、イトヨの生息する湧水池や休憩処の義景庵、遊歩道、案内板などが整備されるなど、新たにまちなか散策の拠点としての「顔」を持つなど進化していき、清掃を通じて訪れる方への「おもてなしの心」を大切にしています。

住民に親しまれ、
観光客にも喜ばれる場所に

『この公園には大野市の3点セットがそろっているんですよ。「湧水」、「イトヨ」、そして、「朝倉義景」でしょ』と嬉しそうに話してくれました。

市内旅館に宿泊する観光客が、早朝より城下町や七間朝市を散策し、公園を訪れることもあることから、メンバーが2人1組で毎日、朝早くから清掃活動をしています。

秋は落ち葉も多く大変ですが、観光客から、『きれいな公園で清々しい気持ちになる』と喜ばれると、ますます頑張ってしまう。また、観光客にも、地域が大事にしている場所だと分かってもらえることも嬉しいとのこと。

『他のメンバーの姿を見て、こんなところまで拭き掃除するのかと思い、だんだんレベルも上がってきました!』と笑いながら話してくれました。きれいにしておく、自然とゴミのポイ捨てもなくなります。地域の人達も日常生活の中で公園に来ることも多くなり、子どもの遊び声が聞こえ、幸せな気分になるとのこと。

今後の意気込みを聞いてみると、『特別な活動をするわけではなく、毎日コツコツと継続してやっていきたい。自分たちもこの活動を通して、元気ももらっている。』と笑顔で語ってくれました。



公園内のトイレ清掃の様子

平成26年度

県民社会貢献活動知事奨励賞

特定非営利活動法人 はあとふる美浜ネットワーク

概要

事務局:美浜町松原35-16-18

TEL:(0770)32-2222

E-mail:wakasamihama@kl.mmnet-aime.jp

関連HP:http://www.heartful-mihama.com/

体験活動のコーディネート

町が一体となった体験活動

美浜町には、海・山・湖・野といった豊かな自然、さらに歴史といった豊かな資源があふれています。県内外の方にこの美浜町の良さをまるごと体験してもらえる場を提供しているのが、「はあとふる美浜」の活動です。

この活動は、今では年間2,000~3,000人の方を受け入れるまでになっています。田植えを始めとする農業体験、地びき網など漁業体験、へしこ作りといった食体験、ボートに代表される自然体験など、様々な体験コースがあります。体験コースのそれぞれにインストラクターが配置されており、それらはすべて、実際に農業・漁業などを営んでいる地元の方々です。現在、年間200~300人ほどの町民の方がこの体験活動に関わっています。

体験活動を通じて伝えたいこと

この体験を通じて何を学んでもらいたいか、その目的がはっきりしているのが、単なる体験活動と大きく違う点です。

体験活動の参加者の多くは、県外の修学旅行生です。事前に先生から子ども達に何を学ばせたいか、また、子ども達が今抱えている問題などをしっかりと聞き、体験を通じて伝えたいこと、解決のためどういったアプローチができるかなど、綿密に打ち合わせをします。



大敷網漁体験

例えば、漁業体験の中でも、ただ漁をするという一部分の体験だけでなく、捕ってきた魚を自分たちで捌いて、みんなで食べる。その中で、食べるということは命をいただいているのだということをしつかり伝えられるよう取り組んでいます。

「美浜では湖があることからボート体験ができ、これは他にはない美浜ならではの体験です。」と担当の林さん。ボート体験は特に人気があるそうで、数人で協力して漕ぐボートは、団体行動、チームワークの大切さを学ぶ絶好の体験となっています。



ボート体験

お互いの交流でまちづくりに

「今年で10年目を迎えたこの活動は、設備も整い、体験プログラムも充実したものになりました」と担当の林さんはおっしゃいます。

体験コースの中では、参加者との簡単な自己紹介から始め、最後に感想を伝え合う。そういった中で参加者の笑顔や、来てよかったといった言葉が、地元の方にもやりがいや励みになっています。修学旅行生からは、後で感想を書いた手紙をいただくこともあるそうです。町民と体験者が交流を深めることでまちづくりにつながる取り組みとなっています。

今後について聞いてみると、「まだまだ個人向けのプログラムが十分でないこと、大人向け、外国の方向けのプログラムも充実していきたいですね。多くの方にこの体験を通じて、美浜の良さを知ってほしいです。」と語ってくれました。

ボランティア 応援企業活躍中!



ボランティア活動に積極的な企業を募集!
～ボランティア応援企業(団体)認証制度～

福井県企業等ボランティア・社会貢献連絡会(通称「Fパネット」)^{※1}では、ボランティア活動に積極的な企業(団体)を認証しています。

この制度は、活動に積極的な企業(団体)を募集し、審査を経て認証することにより、企業(団体)の自発的な取組みを後押しするものです。下記のいずれかの取組みを行っていることを条件としています。

※1…Fパネットは、多数の県内企業・団体の参加のもと、会員企業・団体と連携をとりながら、企業・団体のボランティア活動や社会貢献活動を推進していく連絡会です。福井県社会福祉協議会に事務局があります。



福井県ボランティア応援企業(団体)認証制度
認証ロゴマーク

▶ 活動企業…企業としてボランティア活動を実施

- 【例1】広域的なボランティア活動…河川・海岸等の環境美化活動等
- 【例2】地域や社内での継続したボランティア活動…福祉施設への慰問、地域イベントへの参加等
- 【例3】従業員のボランティア活動に対する支援…ボランティア休暇制度の導入等

▶ 協賛企業・店舗サポーター企業…ボランティア活動への支援を実施

- 【例1】ボランティアポイント制度^{※2}への協賛…独自の特典・割引の設定
- 【例2】ボランティア活動等への寄付(物品を含む)
- 【例3】ボランティア基金等への寄付

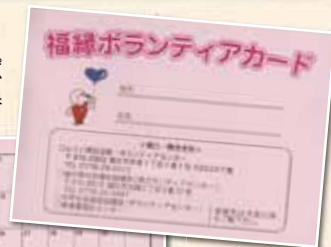
▶ その他…ボランティア活動促進に資する活動を実施

※2…県では、県民の皆さんにボランティア活動を始める“きっかけ”や活動継続の“励み”にしてもらおうと「福縁ボランティアポイント制度」を実施しています。1活動を1ポイントとし10ポイントで活動証明書が発行され、施設や協賛企業に活動証明書を持参すると施設、協賛企業独自の特典・割引(施設利用料金の割引、ドリンクのサービス等)を受けることができます。

現在33企業(団体)が認証されています。いずれの企業もボランティア活動の実施・支援に熱意のある企業(団体)ばかりです。

新規の認証も随時行っています。ボランティア活動を実施・支援している企業(団体)の申請をお待ちしています。

なお、認証企業(団体)の中から功績が顕著な企業(団体)を特別に表彰しています。次号からは特別表彰を受けた企業(団体)の活動内容を紹介していきます。



◎ 《お問い合わせ先》 福井県企業等ボランティア・社会貢献連絡会(通称:Fパネット)事務局
(福井県社会福祉協議会内) TEL:0776-24-4987 FAX:0776-24-0041

ボランティア初めの 第一歩

普段、なかなかボランティアに参加できなくても、いざというとき、誰かの助けに。
災害ボランティアに登録してみませんか。

一昨年9月に嶺南地域で発生した豪雨災害の際にも、県内外からたくさんのボランティアが駆け付け、被災家屋の清掃やがれきの撤去などの活動を行っていただき、災害復旧の大きな力となっていただきました。

災害が起これば、突然、日常の生活が奪われてしまいます。できるだけ早く元の生活に戻っていただけるよう多くの災害ボランティアに活動いただきたいと思います。

福井県では、災害時に活躍していただける災害ボランティアの登録を随時行っています。登録していただくと、災害が発生しボランティアを募集する際には、いち早く情報をメールでお知らせします。もちろん、登録いただいても活動に参加するかは自由です。

災害ボランティアへの登録は「社会貢献活動支援ネット」から。会員登録の際に、希望する活動分野に「災害支援」を選択してください。

福井県社会貢献活動支援ネット 
<https://www.navi-fukui.jp/>

会員登録をしてボランティアに参加しよう!

ボランティア会員登録

こちらから会員登録ができます。
個人、団体から種類を選んでください。



個人でボランティアに参加したい方は
ココをクリック!

NPO・市民グループの方は
ココをクリック!

登録画面イメージ

活動分野	
必須	
<input type="checkbox"/> 保健、医療、福祉の増進	<input type="checkbox"/> 国際協力
<input type="checkbox"/> 社会教育の推進	<input type="checkbox"/> 男女共同参画社会の形成
<input type="checkbox"/> まちづくりの推進	<input type="checkbox"/> 子どもの健全育成
<input type="checkbox"/> 観光の振興	<input type="checkbox"/> 情報化社会の発展
<input type="checkbox"/> 農山漁村、中山間地域の振興	<input type="checkbox"/> 化学技術の振興
<input type="checkbox"/> 学術、文化、芸術、スポーツの振興	<input type="checkbox"/> 経済活動の活性化
<input type="checkbox"/> 環境の保全	<input type="checkbox"/> 職業能力の開発、雇用機会の拡充
<input checked="" type="checkbox"/> 災害救援	<input type="checkbox"/> 消費者の保護
<input type="checkbox"/> 地域安全	<input type="checkbox"/> 市民活動(団体)の援助
<input type="checkbox"/> 人権の擁護、平和の推進	<input type="checkbox"/> その他

全て選択 全て未選択

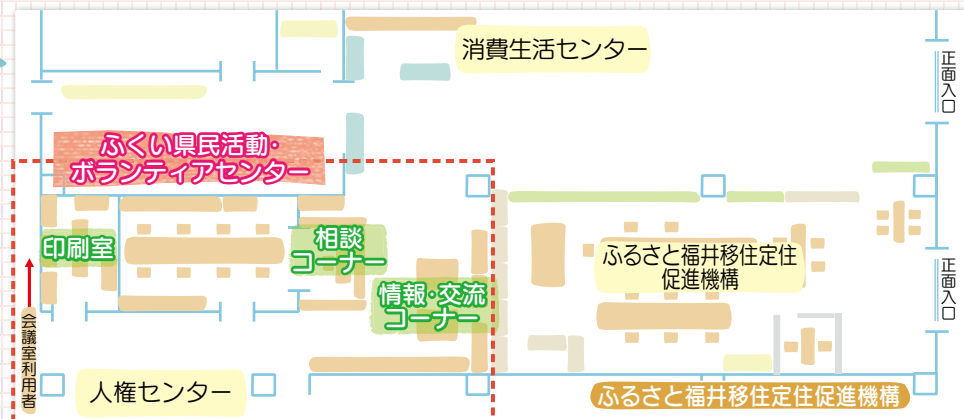
※ふくい県民活動・ボランティアセンターの職員が登録をサポートさせていただきます。不明な点などありましたら、お気軽にお問合せください。

センター配置換えのお知らせ

ボランティアセンターが7階フロア内で下記のように配置換えとなりました。

★これまでと同様に、会議室や印刷室などご利用いただけますので、ご活用ください。開館時間も変更ありません。

フロア配置図



ボランティア関連情報

NPO関連情報

●サマーボランティア体験2015
参加者大募集

この夏休み、ボランティアに参加しよう！
福祉施設でのお手伝いや環境保護活動など、豊富なボランティア活動プログラムから興味・関心のある活動を選んで体験してみませんか。

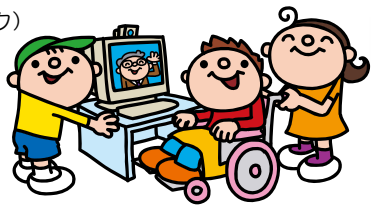
体験期間：7月20日(月・祝)～9月30日(水)

参加対象：福井県内に在住・在勤・在学する小学生高学年以上(小学生は原則保護者同伴)

参加費用：活動にかかる諸経費(ボランティア保険、交通費、食事代等)は参加者の自己負担

申込み先：福井県社会福祉協議会、各市町社会福祉協議会、ふくい県民活動・ボランティアセンター

※体験できるボランティア活動の一覧(活動プログラムガイド)と参加申込書は上記申込み先の窓口にあります。
活動プログラムガイドはインターネット上でもご覧いただけます。
(<http://volunt.f-shakyo.or.jp/>から「サマーボランティア体験2015」をクリック)



問合せ先

福井県ボランティアセンター
(福井県社会福祉協議会)
☎ 0776-24-4987
✉ volunt@f-shakyo.or.jp

●NPO法人の会計・税務相談

計算書類の作成や税金の申告などの会計書類について、専門家(税理士)による個別相談会を開催します。

【対象】NPO法人または社会貢献活動を行っている団体

【開催日】8月5日(水)、9月2日(水)、10月7日(水)

【時間】13:30～16:30の間(完全予約制)

1法人当たりの相談時間は45分程度

【相談料】無料

【申込み】各相談日の前週の金曜日までに電話かメールでお申込みください(先着順)

【協力】北陸税理士会 福井支部

申込み
問合せ先

ふくい県民活動・ボランティアセンター
☎ 0776-29-2522
✉ f-npo-c@ceres.ocn.ne.jp

●事業報告書の提出はお済みですか？

NPO法人は、法律により事業年度終了後3カ月以内に事業報告書を所管庁(福井県)に提出する必要があります。また、役員変更(再任も含む)があった場合は、「役員変更届出書」の提出も必要です。

提出書類の様式は、ふくい県民活動・ボランティアセンターのホームページからダウンロードできます。

(<http://info.pref.fukui.jp/danken/npo/>)

問合せ先

ふくい県民活動・ボランティアセンター
☎ 0776-29-2522
✉ f-npo-c@ceres.ocn.ne.jp

NPO・ボランティアに関するご相談は…

ふくい県民活動・ボランティアセンター

住所 〒910-0858 福井県福井市手寄1丁目4-1 (AOSSA7階)

TEL 0776-29-2522

FAX 0776-29-2523

E-mail f-npo-c@ceres.ocn.ne.jp

開館時間 火曜日～金曜日 9:00～21:00
土曜日・日曜日 9:00～17:00

休館日 月曜日、祝日(祝日でも土・日は開館)、年末年始

アクセス JR北陸本線「福井駅」より徒歩1分
えちぜん鉄道「福井駅」より徒歩1分

